国見の輝き人

食を通じて喜びを提供したい ―

井内　良則（よしのり）さん（板橋南）

「地元の人たちに愛されるようなお店を目指します」と新商品や新メニューの開発に意気込みを見せる井内さん。

私は食品関係の仕事に３０年近く就いていましたが、自分らしくやりたいことをやってみたいと強く思うようになり、早期退職を決意しました。最初は地ビールやワインを作って販売しようと思いましたが、酒類製造の要件が厳しく断念せざるを得ませんでした。ですが、どうしても夢を諦めきれずにいたところ、「どぶろく特区」という制度があることを知りました。そこで、町内にお店を開くことを条件に、町にどぶろく特区の申請をしてもらいました。そして昨年、特区に認定され、私の料理修行や店舗建設など約１年の準備期間を経て、９月 16 日に「彩季亭」がオープンしました。

「彩季亭」で提供している「あつかしのどぶろく」には自分たちで作った町内産のコシヒカリを使用しています。近隣市町村でもどぶろくを製造していますが、品質や味ではどこにも負けないと自信を持っています。遠方から来てくれる方も増えてきているので、より良いものを提供できるように研究を重ねていきたいです。経営が軌道に乗り生産体制が整えば、将来的に県外や国外に販路を広げたいと思っています。「彩季亭」では、どぶろくだけでなく町内産の食材を使った料理も多く提供しています。町の PR も含めて全国においしさを伝えるため、店舗の数も増やしたいです。また、営業日や営業時間の見直し、テイクアウトメニューの開発など、やりたいことはたくさんあります。

「彩季亭」の一番のウリは「あつかしのどぶろく」ですが、老若男女問わず食べてもらえるメニューもあるので、主婦の方やお年寄りにも足を運んでもらえると嬉しいです。子どもや学生の方にも気軽に来てもらえるようなお店を目指し、三世代が和やかに過ごせる“国見町の憩いの場”になれるよう努力していきたいと思っています。

町長コラム

真（ま）こらむ

【第５回】

「子どもたちの瞳」

扉が開く。入る。６年生の瞳が来る。議場が熱い。彼らの体熱。子どもたちの匂い。午前 10 時。ベルが鳴る。子ども議会の開会だ。

６人の議員が町を質す。夢を実現するための場を、外国人も楽しめる施設を、遊び場とカフェが一緒の施設を、旧大木戸小に学習と交流ができる場を、失業した人が働ける場を、歴史イベントと阿津賀志山の観光利用を、と。威厳ある子ども議長の下、国見町がこうあって欲しいとの思いを、顔を上げて、真っ直ぐの瞳で伝えてくる。その姿と一つひとつの言葉に、何度も鼻の奥がツンとする。

これまでになく難しい質問が揃う。答弁作りは難航、何度も書き直す。これは、子どもだからこそ、本物を見る、聞く、知るべきとの思いから。町に都合が悪い質問でもごまかさず、正直に答えることで、薄っぺらな、お為ごかしの議会にはしないとの思いが、彼らに伝わったならうれしいこと。閉会後のタウンミーティングで容赦ない意見を宣った彼らは、給食が待つ学校へ。「今日はラーメン、春巻き、もやしのナムル！」だそうな…。

引地　真